

亀谷窯業有限会社

■事業

壁瓦、敷瓦の収量効率化計画

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

9. 3M3 ガスシャトルキルン台車床煉瓦取替及び棚板

経営理念

「来待をやめるなら瓦屋をやめる」
 ・全従業員の物心両面における幸福を追求すると同時に人類、社会の進歩発展に貢献すること
 ・石州本来待瓦の高温焼成と来待釉薬にこだわり世界に誇る、未来に伝える瓦を創ること
 ・石州瓦の技術を軸に、お客さまのご満足いただける価値を創造すること

優れた耐久性と吸水率の低さが特徴の石州瓦 1350度の超高温焼成で屈指の堅牢性を実現

建物を雨風から守るだけでなく、通気性が良く、断熱性の高い日本瓦は、長年人々の快適な暮らしに欠かせない存在として重宝されてきた。中でも、石見地方で生産される石州瓦は、凍害や塩害に強いため、寒冷地域や海岸地域での需要が高く、日本三大瓦の一つとして全国シェア2位を誇っている。

ずば抜けた耐久性と、極めて低い吸水率を生み出しているのが、耐火度の高い粘土を高温で焼成している点。創業200年超の亀谷窯業有限会社では、伝統技法に基づいて22時間焼成。最後の2時間は、連続して1350度に及ぶ超高温焼成を行い、類を見ない堅牢性を実現している。

特に同社がこだわり続けるのが、1300度以上で初めて赤く発色する来待釉薬。「高温で焼くと瓦が反ったり、ひびが生じたりしやすい。しかし高温でなければ、風情のある淡い赤褐色の“サビ瓦”を造り出すことができない。また、高温になるほど焼き物の気孔が小さくなり、水分の侵入を防ぐ。美しく高品質の瓦を生み出すために、来待釉薬にこだわり続ける」と亀谷典生社長が熱い想いを口にする。

瓦造りの伝統技術をタイルや食器に活用 設備増強で短納期・低単価を実現

製菓会社のMRから転身した亀谷社長が、妻の家業である亀谷窯業に入社したのは2006年からで、瓦の製造工程を体得しつつ、各地の瓦産地を視察するなどして自社の瓦ならではの価値を追究していった。「住宅着工数が年々減少する一方で、市場には多種多様な建築素材があふれている。生き残りのためには大手がやらないことに挑むしかない」。そう確信した亀谷社長は、来待釉薬による高温焼成という伝統技術を、タイルや食器など新分野に生かすチャレンジをスタートする。

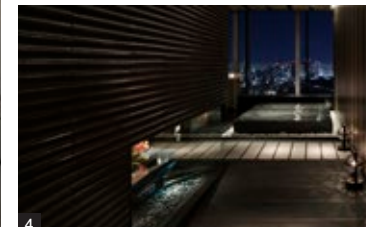
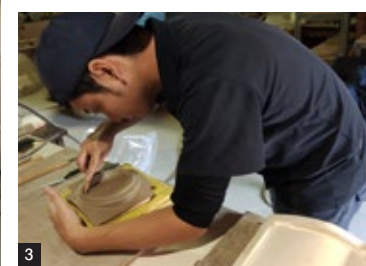
一般的な石州瓦より150度近く高い温度で焼成する亀谷窯業の瓦は、吸水率が石州瓦の平均より3%以上低く、強度もずば抜けて高い。通常屋根の上にある瓦ではそのメリットを体感しにくい、タイルや食器なら身近に



亀谷典生 代表取締役社長



1 最大1350度で高温焼成できるシャトルキルン
 2 瓦タイルに釉薬を塗る職人
 3 亀谷窯業の瓦は、職人らの高い技術で造られている
 4 高級ホテルに採用された瓦タイル



知ってもらえるというのも狙いだった。

そこで、瓦を焼くシャトルキルン（パッチ式ガス焼成炉）の設備を補助事業で導入し、製造プロセスの高効率化を実現。手間がかかる窯の積み降ろしのリードタイムを短縮できたことで作業時間が短縮し、ガス量の削減によるコストダウンにもつながった。

高品質オリジナル瓦タイルは 高級ホテルにも採用 オーストラリアなど海外でも高く評価

高品質でデザイン性も高いオリジナル瓦タイルは、高級ホテルや富裕層向け商業施設など各地で採用。都心の五つ星ホテルや、2020年に開業した国際的なホテルチェーンにも使われている。コロナ禍でもオンライン商談を重ね、オーストラリアで高く評価されているほか、中国やデンマークなどへの展開も進めている。「大量生産ができないからこそ、微妙な色や形をニーズに合わせて手造りする魅力が伝わりつつある。伝統技術が生み出す高品質の瓦の良さを各地に伝えていきたい」

Company Data

亀谷窯業有限会社



バリエーション豊かな瓦食器

代表者名：亀谷典生
 設立年：1806(文化3)年
 資本金：8,000千円
 従業員数：10名
 主たる業種：窯業、土石製品製造業
 本社：〒697-0023 浜田市長沢町736
 電話：0855-22-1807
 FAX：0855-23-0622
 URL: <http://www.kamedani.com>

来待釉薬と高温焼成にこだわり200年
製造プロセスの高効率化を実現し、
顧客満足度の高い瓦タイルを製造